

第130回 滋賀県森林審議会 書面開催による意見について ①

琵琶湖森林づくり基本計画 進行管理および基本指標等達成度に対する点検・評価シート I
基本指標(資料1-1)

番号	該当箇所	質疑・意見
1	1(1) 琵琶湖の水源林の適正な保全・管理の推進 112 治山事業による保安施設整備面積	近年豪雨による災害が多く発生している中、復旧に向けて尽力されていて評価したい。今後も災害の生じる可能性もあることから、危険箇所について注視するとともに、予防的措置が講じられるように欲しい。
2	2(1) 多様な主体による森林づくりへの支援 211 協定を締結して整備する里山の個所数	進捗状況欄に、「里山を管理する体制が広まっている」とあるが、里山では二ホンジカだけでなく、サル、イノシシ、ハクビシン等、様々な獣害により、農業面でも非常に多大な被害が出ています。評価がAに達しているにもかかわらず、里山を整備する必要があり、さらなる支援、農業面との連携等、継続した取組を望みます。
3	2(2) 県民の主体的な参画の促進 221 びわ湖水源のもりづくり月間の森林づくりへの参加者数	全国植樹祭開催に向けて、新型コロナを踏まえての対応について、どのように考えられているのか？
4		コロナの感染拡大に伴い、社会情勢が当初の想定から変わり、3密を避けた実施が必要となっていることから、目標の達成について今後どう評価するのか、あるいはどのように達成していくのか、再検討が必要。
5	3(1) 県産材の利用の促進 311 県産材の素材生産量	「63,000m ³ で53%(69,855m ³ で94%)、達成評価C」とあるが、これまで活用 の国の数値と実態との乖離により、県独自調査数値を併記、森林組合等 素材生産調査の達成率が94%でも評価はCだが、もう少し評価値を上げて もよいのではないだろうか。 戦略プロジェクト、しがの林業成長産業化アクションプランにおいても同じ。
6		上段、下段2通りの算定方法で達成率が大きく異なることについて、どちら の算定方法がより真値に近いのか？県独自調査によるものが、より正し いように思うので、評価も下段の値をもとに行うべきではないか。
7	4(1) 森林所有者の意欲の高揚 411 地域の森林づくりを推進する集落数	森林づくりを推進する集落の過疎への対応について、一部の積極的な所 有者への森林の集約を進めるべきと考えます。
8	4(2) 森林組合の活性化 421 森林組合の低コスト施業実施面積	311の県産材の素材生産量の長期目標の達成と関わる重要事項。経営計 画の策定状況の情報も欲しい。施業面積が伸びていない理由についても 確認した上で、経営管理制度の導入で解決できるのか、など検討してほし い。

第130回 滋賀県森林審議会 書面開催による意見について ②

琵琶湖森林づくり基本計画 進行管理および基本指標等達成度に対する点検・評価シートⅡ
戦略プロジェクト(資料1-2)

番号	該当箇所	質疑・意見
1	1-2 境界明確化に取り組んだ森林面積	非常に大変な事業であるが、林地台帳の整備等と合わせ、どのように境界に関わる情報を得ようとしているのか、地元の所有者に聞くだけではなく、GIS上で、今ある情報を整理して所有者に見てもらい、修正をしていくと、比較的上手く進むという話も他県では聞いている。
2	3-1 びわ湖材を使用し整備した木造公共施設数	新築物件が8施設ということですか？新築とリフォームでは使用部材が異なり、使用する木材量も異なってきます。活用されたその詳細が知りたいです。
3		びわ湖材を使用した公共施設数については、小型物件、改修工事を含め、より細やかに、びわ湖材使用を推し進めるべきと考えます。
4		達成率が低い件について(毎年20施設を計画目標に掲げているが、常に50%前後の達成率であることについて)。重要性の高い事業であるので、達成率を上げる工夫がほしい。部分的な使用であっても効果は見込める。保育施設の床材改装など、具体的な提案を市町村にもっと行ってはどうか。

第130回 滋賀県森林審議会 書面開催による意見について ③

しがの林業成長産業化アクションプラン 数値目標達成度に対する点検・評価シート(資料2)

番号	該当箇所	質疑・意見
1	1-3 境界明確化に取り組んだ森林面積	(資料1-2のコメントと同じ) 非常に大変な事業であるが、林地台帳の整備等と合わせ、どのように境界に関わる情報を得ようとしているのか、地元の所有者に聞くだけではなく、GIS上で、今ある情報を整理して所有者に見てもらい、修正をしていくと、比較的上手く進むという話も他県では聞いている。
2	1-6 再造林モデル地区数	一貫作業システムによる低コスト化の効果についてどうなのだろうか？モデル地区の状況について教えてほしい。
3	1-7 素材生産量	資料1-1の421へのコメントと関連するが、目標値に生産量を近づけていくために、何が課題なのか(低コスト林業が広がらないなどの関係を含め)明らかにしていく必要がある。 施業しやすいところから施業が実施されていくと思うので、後になれば、より施業がしにくい場所が増えることも想像できるので、全体的、広域的に、施業の可能性について評価する必要があるかもしれない。
4	2-2 県内木材産業の水平連携箇所数	木造公共施設の地域での発注を推し進め、各地域での水平連携が活発となるよう、設計・発注段階からの施策が重要となるのでご検討をお願いしたい。
5	2-4 未利用材を活用し、県内でエネルギー利用される木質バイオマス量	未利用材の発電以外のエネルギーとして、薪ストーブ、ペレットの需要を、災害時の対策としても喚起すべきと考えます。